

平成20年度第1回技術委員会会議における意見等のまとめ

資料1

番号	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
1	1 事業計画	小澤	【準備書P1-10】 水質の項目について、一般的な対応を行うからそれで十分だということで、評価項目に上がってこなかったが、その対応策を工程に沿ってもう少し整理した形で記述していただけないか。 (第1回会議録案P29)	次回にお答えさせていただく。
2	4-2 騒音	塩田	【準備書P4-1-3】 図4.1.1に騒音の予測地点があり、振動と騒音の予測計算をしていると思うが、例えば4-2-24ページの表4.2.23で道路端、15m以遠と記されている。その場所だけでなく、もう少し広くノイズコンターで描けないか。 (第1回会議録案P23, 24)	道路端の影響が大きいところの値を予測しているということで、こういう記述の仕方ということで御理解願いたい。
3	4-4 水象	野見山	【準備書P7-3】 人あるいは生物が何らかの影響を受けるようなものが地質に含まれていて、今回の変化によって例えば地下水に含まれて取水して飲むことがあると思うが、そういったことの評価はいかがか。 (第1回会議録案P26)	本坑の掘削に先んじてボーリングを行い採取したコアを分析し、人体、生物に影響のあるものについては影響が出ないように濁水処理施設で今流れている水に近いもので川に還すということを考えている。 また、トンネル周辺の川や湧水を飲料水として利用しているところはない。
4	4-4 水象	鈴木	水象の、量の議論はかなりされてるいるが、水質等についてはどのようにしているのか。 (第1回会議録案P28)	水質は、一般的対策で影響を与えないように処理して流すため、方法書の時点で水質を環境影響評価の項目として選定しなかったが、御承認いただいたという認識でここに掲載をしてない。実際には水質調査は実施している。
5	4-6 植物	佐藤	【準備書P4-6-4】 植物相調査で676種の植物種が確認されたとあるが、経験上ほかの地域と同じ範囲内での相対的な量がかかなり多く感じるがいかがなものか。 (第1回会議録案P23)	文献で調べた1,300種のうち676であり、谷底の限られた範囲である割には多いと考えている。
6	4-6 植物	大塚	【準備書P4-6-40】 ユウシュンランは直接改変される場所に出てくると思われるが、移植を考えているのか。 (第1回会議録案P21)	ユウシュンランの移植は無理と判断し、森自体を改変からはずして回避する。

番号	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
7	4-7 動物	大塚 中村	<p>【準備書P7-5】 方法書についての知事意見に対する事業者見解で、ミドリシジミ類は事業実施区域よりも標高の高い尾根部に生息していることから典型性の指標としていないが、標高の低い場所に出てくるミドリシジミ類もいると思われる。今回どのような種類のミドリシジミ類が確認されたのか。 (第1回会議録案P20, 21)</p>	<p>アカシジミとミドリシジミが確認された。さらに他のゼフィルスが出ないか専門の踏査をしたが、ほかの種は出ず、典型性種として選定するには不適當ではないかと判断し、控えさせていただいた。</p>
8	4-7 動物	中村	<p>【準備書P4-7-104】 ベニモンカラスシジミについて、クロウメモドキがなくなるとその個体群がなくなってしまう。4-7-104ページに、生息域の縮小と分断が生じると記載されているが、全体の個体群の中でどれぐらいの割合が工事によって縮小されるか。 (第1回会議録案P22)</p>	<p>改変個体数の数字に関しては、今、データを整理してなくて何個体何割というふうに迂闊に申し上げられない。改変割合に関して次回でも御報告させていただければと思う。</p>
9	4-7 動物	中村	<p>【準備書P4-7-104】 クロウメモドキを移植して、そこにベニモンカラスシジミの幼虫を引っ越すのは難しいと思われる。実際根付く可能性についてはいかがなものか。 (第1回会議録案P22)</p>	<p>現在する株について、川沿いのものは全部印をつけて確認をしている。改変は河川に対して片側だけの改変である場合が多いもので、対岸に残せるものは残すことにしている。対岸に残しておくことによってコリドーができて、それによって個体群が維持できると考えている。 苗木の移植実験も続けており、活着したものも出てきている。</p>
10	4-7 動物	亀山	<p>【準備書P4-8-79】 ベニモンカラスシジミの移植後の定着の不確実性について書いてあるが、これはモニタリング対象となるのか。 (第1回会議録案P22, 23)</p>	<p>現在も始めているし、今後もモニタリングの対象となる。</p>
11	4-8 生態系	阿部 亀山	<p>生きものの生態を見ないような、それから底辺の動物を粗末にするようなアセスメントではいけない。今後展開していく上で、いろいろ御配慮いただきたい。 (第1回会議録案P26) 餌になる小動物は設計段階で気をつけていただくことだろうと思う。区間はほとんどトンネルなので、あまり側溝のような問題はないが、明かり部もあるので十分配慮していただきたい。 (第1回会議録案P26)</p>	

番号	区分	委員名	発言要旨	事業者の説明要旨
12	4-10 触れ合い 活動の場	陸	<p>【準備書P4-10-12~4-10-15】</p> <p>塩の道は直接改変されるが、周辺環境の改変や利用に伴う影響は変化なしという評価になっている。同様に島畑、墓石についても直接改変によって消失するが、アクセスの阻害やルートの変化については変化なしという評価になっている。評価の仕方について説明をお願いします。 (第1回会議録案P19)</p>	<p>塩の道の一部の区間は残存しているが現在利用がないため利用の変化としてはない、と表現をした。いま歩けるような道の部分は改変対象にはなっていないので利用の変化はなし、と表現した。</p> <p>道路ができることによって、塩の道へは行きやすくなるので、アクセス性は○をつけた。島畑はなくなってアクセスの阻害そもそもがないので変化なしで「-」と表現した。木地師墓石も同様。</p>
13	4-10 触れ合い 活動の場	亀山	<p>【準備書P4-10-11~4-10-12】</p> <p>P4-10-11の表では影響があるような場合に○であるがP4-10-12の表では●となっており、○と●が同じような意味で記載されている。統一されてはどうか。 (第1回会議録案P19)</p>	<p>P4-10-11ページの表は全体として事業の影響があるかないかで○、×をつけている。</p> <p>同じマークの方がいいのではないかという御指摘はもっともで、表現の改善はしたい。</p>
14	4-10 触れ合い 活動の場	亀山	<p>【準備書P4-10-16】</p> <p>保全対策について何らかの形でミティゲーションすると書いてあるが、“こういうふうにしますから大丈夫です”とか“事後調査をします”とか、どうするかが明瞭でない。 (第1回会議録案P10)</p>	<p>現状どういうふうに復元するのが地域にとって望ましいのか、まだ話し合いが始められてないためここには書けなかったというのが現状で、書き方については今後検討させていただきたい。</p>
15	4-11 廃棄物等	梅崎	<p>残土の有効利用に当たり、自然由来の砒素のような重金属類等について、土壤汚染調査をするなどの対策を行う旨を明記したらどうか。 (第1回会議録案P27)</p>	<p>即答は控えたい。対策等の記述をどうするかについて、次回お答えさせていただく。</p>